

飯館村を形づくる個性豊かな
20行政区を連載で紹介します

6区 八木沢・芦原行政区 いいたて20行政区 vol.6

南相馬市に接して村の東部に位置する行政区。区内を通る幹線道路・県道原町川俣線（県道12号線）には、八木沢峠のかつての難所に整備された2つのトンネル「石ボロ坂トンネル」（平成17年開通）、「八木沢トンネル」（平成30年開通）があります。

江戸期には、太平洋沿岸と内陸を結ぶ奥州西街道（相馬街道）、通称「塩の道」の途上に八木沢宿があり、海産物を運ぶ馬や人足でにぎわいました。旧道沿いには塩蔵跡や団子茶屋跡の碑があり、往時の面影を伝えています。
また、街道の分岐に遺る宝暦7年（1757年）建立の「六字名号供養塔」は、道標を兼ねた「名号塔」で、飢饉の餓死者を供養するために建てられたと伝わりま

八木沢峠の「七曲がり」と呼ばれた区間で道路を拡張しカーブを減らす改修工事。（昭和40年代）



「塩の道」の古道の傍らに佇む「トウバノマツ石碑群」。石碑や地蔵が15体ほど並んでいます。



復興事業で令和5年に増築された「大空ファーム」の豚舎。（令和6年）



田植え踊りを復活させ、いいたて村芸能発表祭で披露。（令和5年）

八木沢・芦原行政区（6区）

区民数105人（令和8年9月1日現在／住基人口）

八木沢峠の旧道は霧の名所。この辺りでは「霧（もや）」と呼びますが、田植えの頃に峠の谷から上がってくる霧に集落が包まれることがあります。八木沢トンネルが開通し、車の通行は減りましたが、自転車旅の人が旧道を行くのをよく見かけます。現在、南相馬市と飯館村の境で「野馬追の里風力発電所」の建設が進められていて、製造業に携わる私は、部材の移送などを興味深く観察しています。避難先で暮らす方も庭や家の手入れに通っていて、若い世代を含め草刈りにも参加してくれます。行政区としては数年ごとに研修会を行っています。



高野義一 区長



平成

避難指示解除から半年。販売を目的とした主食用米、村内で6年ぶりの稲刈り。（平成29年）



令和

もち米「あぶくまもち」の実り。生産組合を中心に生産拡大に取り組んでいます。（令和6年）

稲刈りの今と昔

さまざまな場所
や暮らしの変化
を見てみよう。

いいたて 今昔物語

70周年
村制施行



昭和

昭和期の稲刈りを写した1枚。「つくし掛け」の様子。



平成

冷害による凶作で県が視察に。10月に入っても稲が青いままの水田。（平成5年）

阿武隈高地の寒冷で平地が少ない厳しい自然環境にありながら、先人は少しずつ山あいや斜面を開墾して稲作に取り組みました。近代もたびたび冷害に見舞われましたが、「結い」による農作業の助け合い、土地改良事業推進に伴う機械化、畜産や花き栽培などと組み合わせる複合農業の推進など、気候風土に合わせた農業の発展に挑み続け、肥沃な農地をつくり上げてきました。取り組みが実り始めた矢先、震災と原発事故による全村避難で農業が全面的に中断される事態となりましたが、震災後もまた新たな条件下で、農地の集積と再生、営農スタイルの探求が続いています。稲作では、寒冷地に強い県オリジナル品種のもち米「あぶくまもち」の生産再開と拡大、飼料用米の大規模栽培による農畜連携の推進などがその例です。不屈の精神で農業の未来を描く飯館村。実りの秋の風景には、今も昔も格別の想いがあります。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」
からのお知らせです。

読書週間 10月27日～11月9日
最近読書をしていますか。

読書は読解力や語彙力、記憶力、集中力、想像力などが向上するさまざまなメリットがあります。ぜひこの機会に読書の秋を満喫しましょう。

おすすめ図書を紹介します

『夏帆』



村上春樹 著
新潮社

主人公は26歳の絵本作家・夏帆。初対面の男からいきなり謎の言葉で侮辱されたことを境に、彼女の日常は「ありくいや」「シロアリの女王」といった異界のものたちが交錯する奇妙な世界へと巻き込まれていきます。リアルと非リアルが織りなす、これまでにないクリアで前向きな読後感に出会える一冊です。

本の貸し出しご利用ください

問 交流センター「ふれ愛館」 ☎0244-42-0072